

2019.09.14.saturday

向日市ふるさと創生推進部 企画広報課



<マネジメントコース第2回> 向日市を飛び出して現地視察！

9月14日(土)に開催したマネジメントコース第2回目は、新たな視点や実践方法を発見するため、向日市を飛び出し、大阪府富田林市にある観光交流施設「きらめきファクトリー」を見学しました。

当日は「きらめきファクトリー」の赤崎館長から施設のご紹介をいただいた後、周辺の寺内町(じないまち)を散策し、富田林市での観光まちづくりの取組を体感しました。



観光交流施設「きらめきファクトリー」を見学

「きらめきファクトリー」は近鉄長野線富田林駅前にある観光交流施設です。2階建ての建物には観光案内スペースや特産品販売スペース、多目的スペースなどがコンパクトにまとまっています。赤崎館長から施設やイベントをご紹介いただいた後、受講者の皆さんからの質問に答えていただきました。

「富田林(とんだばやし)」や「寺内町(じないまち)」が読めない人が多かったため、ひらがな表記や愛称、マーク化して認知度を高める工夫をした。



富田林市ブランド認定委員会が認めた特産品を一堂に集めて、富田林ブランドのアンテナショップとして販売。POPや、SNSなどを使い売り上げUPを図っている。

寺内町の人の反応は？

寺内町の町家の多くは実際には人が住んでおり、観光で多くの人があることを懸念する声もあるが、「寺内町のPRになるならば」とさまざまな団体・住人に協力していただいている。

富田林市の魅力は？

変わっていない、残っているところが魅力だと思う。知的好奇心のきっかけとなるようなキーワードを発信し、まちの財産や歴史を知ってもらいたい。

富田林寺内町を散策

江戸時代から明治時代にかけての町家が多く残っており、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されているまちなみを散策し、富田林市の観光資源を体感しました。



旧杉山家
住宅

寺内町一帯ではまちバルなどさまざまなイベントが開催されている。

「『富田林』という地名がきちんと読んでもらえない。」というお話の中で「自分たちが当たり前だと思っていることが、他の人にも当たり前だとは限らない。」と赤崎館長はおっしゃっていました。地名だけでなく、私たちがPRする観光

資源も「自分にとっての当たり前」というフィルターを外して見てみると意外な魅力が見つかるかもしれません。次回はこれまで学んできたさまざまな地域での事例を参考に、「向日市で何ができるか」「自分は何をPRしたいか」

など具体的に考えていきます。

「観光を仕事に」を実現させるためには何が必要か(アイデア、人、お金などなど…)、1回目と2回目のワークシートを中心にみんなでディスカッションしていきましょう！